様式第３号（第４条関係）

会　　議　　録

１．附属機関等の会議の名称

松川町環境審議会

２．開催日時

令和５年 12 月 25 日（月）18 時 30 分　～　20 時 30 分

３．開催場所

松川町役場　２階　大会議室

４．氏名（敬称略）

出席委員　10 名

米山　郁子、細田　勉、佐々木　孝子、米山　由子、正井　広昭、山崎　隆、
鎌倉　正孝、知久　克志、保城　充子、久保田　菜美子

欠席委員

坂巻　勲、小川　隼人、小椋　吉範、橋爪　和也

事 務 局

下井　昭二、大橋　良平、林　雅人、米山　敏

５．議題（公開又は非公開の別）

（１）第１回目を踏まえた今後の進め方の整理について

○　地球温暖化実行計画策定に向けた基礎情報と世界、国内動向について

・・・【資料１】

（２）松川町地球温暖化対策の方向性について

○　令和５年度松川町地球温暖化対策実行計画策定支援業務報告（第２回）について

・・・【資料２】

６．非公開の理由（会議を非公開とした場合）

７．傍聴人の数　０人

８．会議資料の名称

（１）地球温暖化実行計画策定に向けた基礎情報と世界、国内動向について【資料１】

（２）令和５年度松川町地球温暖化対策実行計画策定支援業務報告（第２回）について【資料２】

・加えて、当日配布資料として、御欠席の委員から事前にいただいた御意見を配布

９．審議の概要

（１）開会（事務局）

（２）会長あいさつ

（３）協議事項

① 第１回目を踏まえた今後の進め方の整理について

○ 地球温暖化実行計画策定に向けた基礎情報と世界、国内動向について

・・・【資料１】

事務局及び業務委託者（ＲＥ諏訪湖株式会社）より説明

〈質疑等〉

（委員）説明してくれた内容のスケールが大きすぎて、実感がわかないという現状。実際、温室効果ガスが増えているというデータはあるか。温度が上がったなどは書いてあるが、温室効果ガス、これはほぼ二酸化炭素を指していると思うが、定義があいまいで他にもたくさんあると思う。だが温度の変化と温室効果ガスの増が本当にリンクされているか説明だけではわからないので、そういうデータが欲しいというのは感じた。

（RE 諏訪湖）GHG、温室効果ガスというのは CO2 だけではなく、皆さんの聞き覚えのあるところで言うとメタンガスですとかそういったものも含めて地球温暖化させるものっていうのは非常に多くの種類がございます。

その中で一番量が多いのは CO2 と言われるもので皆様もよくご存知のものだと思いますけれども、この CO2 と地球温暖化のグラフというのが、先ほどお話した IPCC という世界機関の方で調査をされておりまして、バックデータというのはこの世界機関の方にございますけれども、こちらは、全世界の研究者の方が集まって、人間の活動量が CO2 の排出量に直接繋がっているというバックデータをとりながら、そのデータの上に地球が同じように温暖化しているということを突き止めて発表されたというところでございますのでその部分は疑う余地はないのかなと我々は思っております。

またバックデータみたいなものがどこかにありましたらお出しできるようにしたいと思います。研究データになりますのでまたお示しできるときにはお示しさせていただきたいと思います。

（委員）調べたらわかるってことでしょうか。

（RE 諏訪湖）そのとおり、ご自身でネットで調べていただくと出てきます。

（委員）世界レベルのお話を頂戴しましたけれど、今日のような話の中からですね一体この何年かけていこう町の計画を立てていくのであろうかと思いますけれども、非常に道が長いような気がいたしますので、松川町の計画を立てるわけで、日本の計画立てるわけじゃないですね。

そしたら日本じゃなくて松川町として、問題点は何があって、その問題点の解決策って具体的にはこういうことをしていこうじゃないかっていうところへ持っていかないとこの事業

は展開されないんじゃないかと思いますけど、来るたびに大きな話は伺いまして、事務局でもう少し絞っていただくことが必要ではないのかなということを感じましたけどいかがですか。

（RE 諏訪湖）おっしゃる通りだと思います。２つ目の議題でのそちらの方は、説明させていただきます。

前回も今回もそうなんですけれども、やはりこういった社会状況であるので、松川町として何をしなければいけないかというのをですね、やはり審議会の皆様にバックボーンをしっかり理解した上でいろいろなご意見をいただく場にしていきたいということですね。

事務局の方々ともお話をさせていただいておりまして、数回の会議で決まるようなお話ではないので、来年度に向けてまずはバックボーンの知識を皆様と共有しながらですね、時間をかけながら、この松川町としては何を最終的にいいのかということは決定していかなければいけないだろうと思います。

ただ、そのときにやはりもちろん世界的な大きな話になってしまうんですがこういった世界状況があるから我々はそれを選ばなければいけないということをまず皆様と共有しながら進めていこうということで、事務局様と打ち合わせさせていただいて今日の一部にこういう話を入れさせていただきました。

②　松川町地球温暖化対策の方向性について

○　令和５年度松川町地球温暖化対策実行計画策定支援業務報告（第２回）について

・・・【資料２】

事務局及び業務委託者（ＲＥ諏訪湖株式会社）より説明

〈資料説明後の補足〉

（RE 諏訪湖）今お示しさせていただいたものはですね、基本的には前回お示ししたこちらに出させていただいております松川町様の再生可能エネルギーの導入にどういうポテンシャルというものがございましてこちらも国が調べてくれた松川町としてのポテンシャル、どのぐらい使える再生可能エネルギーがあるのかというところとですね、あと松川町の地域特性、そして松川町様のアンケート等をですね、我々の方で精査させていただいて、こういった方針であれば取り組めるんじゃないかというものを今回ご提案させていただいたという状況です。

特にこちらのデータでいいますと、ちょっと見えづらいかもしれないんですけど、松川町さんとしましてはその電気の需要と熱の需要が同じぐらいあるんですけれども、電気の需要に関しては、実は再生可能エネルギーのポテンシャルで十分にまかなえるというデータが出ています。左側のデータの電気という部分のオレンジの部分が使っているところです。青いのがポテンシャルになりますので、松川町さんのポテンシャルとしては、今皆さんが使ってる電気は、松川町の再生可能エネルギーの電気だけで全て賄うことが十分可能です。

ただこれは、ポテンシャルですので、全てを使い切るというところでいうと、野建ての太陽光を空いている土地に全部埋めてみたいな話になってしまうので、そうではなくてですね、青い部分もちろん多少だけ使うだけでも十分にまかなえますというようなデータが出ている。

逆に熱の部分で言いますと、熱の需要はオレンジ色のところになっていて、使えるポテンシャルが青い部分しかないというところですのでこれは再生可能エネルギーで賄いきれないというデータになっています。

これどうするのかというと、熱のエネルギーを電気に変換していく必要があるということです。灯油で温まって温めているこの家をですね、エアコンで温めるように変えるというようなことをして、熱エネルギーを電気に変えていくということで賄っていくのが一つ。

もう一つは技術の革新を持って LP ガスですとか灯油とかが水素ですとかアンモニアとかっていう代替燃料みたいなものが出てきたときに転換できるんじゃないかというふうなことを含めて今回調査をさせていただいております。

そのポテンシャルと松川町さんの地域特性の中から、先ほど施策を我々としてはご提案させていただいておりまして、最終的には、これは案になりますので、これを来年度ですねさらに皆様と一緒に精査しながらですね、これをこのぐらい入れるんじゃないかという具体的なものを来年度最終的には決めていくというような流れになります。

特に今回皆様にお示しした八つの柱の部分でこの部分は松川町に合わないんじゃないかみたいなものがあればご意見いただければと思います。

多分そのポテンシャル、地域特性そして皆様からいただいた住民のアンケートをもとに、我々としてはこういう方向であれば、松川町のあのポテンシャルを最大限に活用するのと同時に、松川町様の再生可能エネルギーの転換が非常にスムーズにいくんじゃないかというご提案をさせていただいておりますので、ご意見がございましたらいただければと思います。

〈質疑等〉

（委員）P17 に清流苑のバイオマス資源の活用ということが書かれておりまして、非常に興味がある。町がカーボンニュートラルとかそういう目標を持つ中で、町営の温泉施設が、主体的というか、先頭に立ってやるっていうことが、とても効果があり、個々の宣伝効果とか意識の醸成とかにもすごい繋がっていくような気がしまして、清流苑は今改装工事が始まってるって聞いているんですけど、これ今からでも間に合うものなのかどうか。

（RE 諏訪湖）ありがとうございます。今からは間に合わないと思いますけれども今後に向けては必要かなというふうに思います。おっしゃるとおり、清流苑は松川町にとって非常にシンボル的な施設と思っておりますし、観光客の方々にとっても地元の方々にとっても憩いの場になってるんじゃないかなというふうに思います。

こういった場所が、バイオマスボイラーや地域の資源で賄われているですとか、あと今後で言うと屋根乗せ太陽光ですとか、来年度以降、特に注目されるだろうこととして、ソーラーカーポートと言って、駐車場を太陽光パネルにしていくっていうようなことがですね、来年ぐらいから非常に注目されて増えてくるかなというふうに思うております。

今後先ほど EV の充電器がないと街の中で使いづらいって話ありましたけども、観光客の方もやっぱり一緒ですので、実は清流苑って私お付き合い長いんですけれども結構早めから EV の充電機あったんですよね。あのあたりは非常に取り組みが早いなと私は思っている中で、やはり今充電器も新しくなってきまして、短い時間で充電ができるようなものも出てきておりますので、今後その清流苑なんかはですね、やはりバイオマスボイラーですとか屋根

乗せ太陽光など、来た方も地域の資源のエネルギーで充電して帰るみたいな新しい観光の方針って言ったらいいんですか。実はこのあたり、先行100都市と先ほどお話させていただいた、今86ヶ所決まっているエリアは、皆さんこの脱炭素と地域課題を同時に解決するっていうところで、こういう観光施設に脱炭素をして、そして経費も削減できて、観光客が集客できるというようなモデルを作っておりますので、我々も今清流苑で改装されているんですけれども、今後、ああいった施設が松川町にとって脱炭素のシンボルでもあり観光のシンボルでもあることが大事かなと。町の施設ではあるんですけれども民間的な動きをされて経営をされているところでもありますので、経済的にも自治体の施設としても注目されるようなものであったらいいなというのは今回調査やっていただいて非常に感じているところです。ぜひ環境審議会の方々が町の方にそういったご意見を教えていただけると、スピードが速くなるんじゃないかなと思いますので、今回は間に合わないと思いますけれども、次回に向けてそういったことも取り組める施設になったらいいなというふうに思っております。

（事務局）事務局からもよろしいでしょうか。今のご意見を聞いた中で、公共交通の担当も私はやっておりまして、デマンド交通とかやっている中でEV車両であったりとか、これから脱炭素を考えていくっていうことで言うと、公共交通でも町民の方に町が取り組んでいるっていうのをやってくのも一つの手かなと思います。

チョイソコに多く乗ってくれることで、乗り合いが高まることによってマイカーがなくてもいいってそういう世界にもなっていくと思いますし、それはEVも進めるし、マイカー自体の役割を縮小するってところでも課せられた役割になるのかなと思いましたので余談ですけれども、ご意見いただきました。ありがとうございます。

（委員）基本的なことを今更聞いて申し訳ないけれども、今回の審議会の基本的な議題としては、松川町環境基本計画の一環という考え方でいいわけですよね。

（RE諏訪湖）そのとおりです。環境基本計画の中には事務事業編と区域施策編というのがございまして、事務事業編というのは先ほどおっしゃったように、公共の施設の再エネ化ですとかそういったことを取り組んでいく計画になる。区域施策編というのは、町全体、住民の方も含めて計画を立てる。今回のこの調査事業をした結果、区域施策編の改定というに入っていきまして、松川町環境基本計画の中の区域施策編が改定されるというような流れになります。

（委員）では、もっと大きな総論というか、もっと大きな部分は、当然話で出てくるわけですか。

（RE諏訪湖）今回の区域施策編の中では出てこないんですけれども、もちろん環境審議会の中で、出てくるご意見に関しては、事務局の方々もいらっしゃいますので、そういったところも意見としては取り入れさせていただきたいというふうに思っております。

（委員）これで終わりでは全体の視点で言うと環境の部分だから狭過ぎちゃうので、もっと広い目で全体を見てくれるような形になるといいなと思います。

あともう一つ、私は廃プラの関係の仕事させていただいていて、さっきボイラーという話が出てたと思うんですが、調べてもらうと、松川町の廃プラの中間処理目的物を数年前からRPFということで、燃料化しています。

RPF を使った環境に配慮した形で、ボイラーは実はあるんですよね。

エネルギーの部分とかいろんな部分で見ていったときに、すごく安価で、当然昔ダイオキシンが出るとかそんな話出ましたけど今はそういうものは全くなくて利用できるようなものがありますので、今後取り組んでいくという話で、あまり聞いたことないんで、そういう公共施設もし新しいボイラーを入れるようだったら、そういうものも考えていったらどうかなっていう意見です。

（RE 諏訪湖）ありがとうございます。RPF も、現状検討しているわけではございませんが、どちらかとやっぱり有機物が多いんですが、実は RPF も非常に有効なエネルギーだと我々は思っております。

例として、松阪市という三重県の松阪市の発電所の計画で、今年の 10 月に着工したものがあります。

このバイオマスの発電所ですけれども、ノーフィット方って言いまして FIT という制度を使わずに、長野県内のホクトというキノコの会社が、キノコの使用済培地と地元の木質資源と、RPF を活用して電気を作り、その電気を全てホクトが買い取るという発電所になっています。

実はこの発電所の組成にうちの会社も関わらせていただいておりまして、やはり単純に今後のバイオマスを考えたときに木質資源だけですとか廃棄資源だけではなくてですね、いくつかミックスして使っていく必要があるというふうに思っておりまして、今お話聞いて中間処理で RPA が作れるものが街中にあるのであれば、やはり有効活用できるようなものを模索していく必要があるなというふうに思いますので貴重なご意見いただけてよかったなと思っております。

（委員）細かすぎることかもしれないですけど、電気自動車って一体 1 キロ走るのにいくらぐらいかかるかがわからない。維持費じゃなくて、コスト的にどうなのかな。これは素人の興味の話です。電気自動車わかるけれど、実際ガソリンの車と比べて走るのにどのぐらい差があるのか、高いのか安いのかっていうところでも、やっぱ考えないといけない。

あともう一つは、その町の全体のことを考えて、ずっと資料を見ていると、やっぱり「地産地消」ということが大事だと感じている。町の公共の施設はそこで賄えるようにして、あと本当に自然がいっぱいある、最後何かそういうところをもっと軸に上げて、森を守る、里山守るということでもって、町の自然エネルギーを有効に活用するっていうようなそういう発想が大事かなと。具体的にはわからないんですけど、私としてはそういうのを進めていっていただきたい。太陽光発電はいいんですけど、作ることができても壊すときのデメリットは払拭されてなくって、作るだけ作ってやってみたけど駄目だったからというとき、今は自然災害なんかも強くて、本当に強い風のときに本当に大丈夫かというのは思う。ペラペラ飛ぶから。だから、そこまで含めての保証ができるかどうか、廃棄するときの保証ができるかとかそういうところを考えて、あとは地産地消、本当に根付いたものというのは、うまく言えないんですけどそういうふうな計画を立てていきたい。

（RE 諏訪湖）ありがとうございますおっしゃる通りだと思います。

地産地消と言えば、最初は食品のことを言ってたんですよって言葉が出ましたけれども、

やはりエネルギーの地産地消って実は一番重要で、エネルギーを外に頼ってるんで、震災のときもそうですけど送電線切れたら何日間も電気が来ないとか、一番人の命に関わるところが、実はエネルギーだと私は思っていまして、エネルギーの地産地消ができていれば地域の顔を見れる人たちでエネルギーを分け合うことで活用していくことができるというところで、やはり命を守るのにエネルギーの地産地消なんじゃないかなというふうに思っております。

先ほどの電気自動車のお話ですけれども、電気自動車は、実は走るのにいくらかかるのかがですね、電気の質によって違う。家に太陽光のパネルが載っていて、蓄電池がついていると、走るためには 0 円なんです。自分で作った電気で乗りますので、一切経費かからないということになります。

パーキングエリアですとか、外で入れる場合は各メーカーですとか、使うバッテリーによって電気代が変わるので一概にいくらとは言いづらいんですけれども、少なくともガソリンに比べると半分以下にはなるんじゃないかなというふうに思っております。

環境のことは、単純に環境だけでは括れなくて、12 月からまちづくり政策課が事務局になっていただいたのも、松川町としては環境だけの話ではなく松川町のまちづくり全体として、環境のことに取り組んでいくというところでまちづくり政策課さんが事務局さんにもなっていただいていますので、やはりその松川町がどんな街になっていくのかということを考えていくのがこの環境審議会の一つの目的になるのかなというふうに思っている。なぜかというと先ほどお話したとおり 2050 年には、脱炭素が達成された社会というのが、決まった未来としてあるんですね。

IPCC は日本からも研究者が行ってるんですけども、そのお 1 人の慶應義塾大学の山形先生っていう方と、我々今一緒に共同研究をさせていただいております。

そういう IPCC の報告書とかを見ると、気温上昇が 2.5 度を超えると 2100 年には人間の住めない世界になるっていうような報告書に変わっているんです。

なぜかというと先ほど NHK の動画の中で永久凍土が溶け出していて、ウイルスが、なんて話がちらっと出たと思うんですけども、実は永久凍土の中にメタンガスって言われる CO2 の何十倍もですね、地球温暖化効果の高いものがいっぱい埋まってるんです。

それが溶け出してしまうと一気に加速して、人間のコントロールではもう人間の住める世界に戻らないっていう研究報告も上がってはいるんですね。

そういったところからすると、2050 年に脱炭素を達成するのは絶対的な条件であるというのが今回の COP28 で言われたことなんです。

ですので、環境審議会の皆様に今回の前半のお話を実はそういった危機感と、もちろん目の前の生活がありますので、どう生活を変えていくのかっていうのが重要なんですけれども、でもゴールは 2050 年にゼロにしなければいけないという前提の上で、松川町として動いていく。その中の環境審議会として、松川町が 2050 年どうなったらいいのかというのを考えていただく委員の皆様だと思って我々はお話をさせていただいておりますので、ぜひそんなところも含めてですね、もちろん地産地消のエネルギーであったり、そして太陽光も良いエネルギー源であることは確かであっても、危険性があったりする部分も、どういうふうにしたらそういった危険が減らせるのかというのも含めて一緒に考えながら進んでいければなというふうに思っておりますので今後ともぜひまたご意見を出していただきながらですね、松

川町の未来を考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（委員）8 ページの営農型太陽光発電の普及いうことなんですけども、果たして松川町の中で、これだけの設備を全て設けることのできる大規模な農家があるかどうかっていうことと、松川町の景観条例というものがあります。考えていくと、果たしてそういったところいかがなものかなという思いで発言させてもらいました。

（RE 諏訪湖）ありがとうございます。

もちろんですね景観条例もございますし、その他の地域でもそういったお話もあります。

農業の大きさで言いますと、一反部ぐらいからできるものもございますので大きさはそれほど大丈夫かなというふうに思います。

景観条例に関しましては、ソーラーシェアリングはいろいろなものがございまして、非常に古臭いものから、今皆さんが見ていただいたようなスタイリッシュで、あまり景観に影響しないようなものもございます。こういったものを、一緒くたに太陽光だから駄目みたいなふうにはしないように、ぜひ環境審議会の方々にはいろいろな情報を我々お伝えしたいなというふうに思っております。もちろん、その中でも最終的には農業をやってる上で太陽光をするのは松川町としては良くないというふうに選択していくことも可能だと思います。

ただ、先ほども言ったようにゼロカーボンの世の中、そして地域で循環していくエネルギーとしてやはり太陽光のポテンシャルは高いので、有効活用するのはこのエリアだとか、こういう条件ならいいというものをですね、最終的には付けていく必要があるのかなというふうに思っております。

もちろん全てが、エネルギーが作れるから全部いいんだという話ではやはりないので、松川町としてこういったものであれば認めるというものを最終的には判断していく必要があるのかなというふうに思っております。

（委員）太陽熱でお湯を作るのと、電気を作ってその電気でお湯を作るのはどっちが効率が良いですかね。

（RE 諏訪湖）ありがとうございます。熱をつくる方が効率は良いです。ただ熱を作ったところで、使い道が逆に言うと一部にしかならないので、熱を使う効率まで考えると、電気の方が非常に何でも使えるので、使い勝手がいい。

（委員）例えばお風呂に使うのってものすごい量だと思うんですけれどそれを、結構電気温水器が普及していると思うんですけれど、それを屋根に太陽光だけじゃなくて、僕は直接お湯を作るのをもっと推進していった方がより効果が高いんではないかなというふうに思っています。

（RE 諏訪湖）屋根乗せの太陽光と太陽熱の利用っていうのは有効だと思います。

あまり太陽熱がまだ広がっていないのは、先ほど言ったように使うときも種類が少ないのであまり使われていないのと、実は太陽熱だけだと、特にこの長野県みたいな寒冷地域だと熱が足りない場合が、冬の場合はあるんです。

だからそういったちょっと課題があるので使い方はあるんですけれども、我々も太陽熱というのはポテンシャルとして高いので、ぜひ松川町さんとしては活用できるエネルギーとし

て選択していってほしいなというふうに思っております。ただ使い方がありますので、そこは個人の方々の選択肢が出てくると思いますけども有効なエネルギーであることは確かです。

（委員）もう一点、薪のエネルギーなんですけれど、この間も話に出たが、薪を作るのは大変なんです。それを買っていたら、石油の何倍もかかる。それを例えば今、自動車のガソリンに補助金ってかなりの額が出てますよね。そんな形のように、薪にも乗せられないかなと。

例えばそれを国でやるのは大変かもしれないけど、松川町の方で独自に薪のどの部分に補助金を乗せるかちょっと難しいと思うけど、そういったものを使っていけば、電気ストーブを薪ストーブに変えようかって思う人もいるのかなっていうふうには思います。

（RE 諏訪湖）おっしゃるとおりだと思います。近場で言うと隣の中川村さんがですね、森の駅から薪を販売するような場所を作っていらっしゃったりしますし、温泉も薪なんですね。

別荘地に行きますと、薪の販売とかも非常に盛んで、そういうところに行くと買える部分もありますし、あとどうしても薪も、いい種類の薪、広葉樹で堅く、日持ちするものもあれば、逆にやはりその建築廃材のももちろん使えなくはないわけですよね。

もちろん何を使うかはもちろん個人の方から選んでいくところなんですけれども、松川町内で採れた木材、松川町町有林とかから伐採された木を薪にしたものに関しては、何かしらの補助をつけていくとかっていうのが一つ施策としては考えられるんじゃないか。それをいくらにするのかとか、逆に不公平感で言うと、薪のストーブついてない人が補助受けられないじゃないかとかっていう話も出てきますので、一概にそれをやったらいいとは私も言い切れないところはあるんですが、補助金がつくことで薪ストーブを入れる方が増えて、町の森林がさらに整備しやすい状況になるということであれば、やはりそこは循環していくと思いますので、町の方々が町の山のエネルギーを活用して、それをまた山に帰されるというような循環システムができるのは非常に良いシステムなんじゃないかなというふうに思います。

（委員）相対的に松川町の強みとなるところ、森林であったり日照時間が長いとか、農業、農家が多いという形でありますので、そういったところをターゲットに重点的にするのも一つ。

要は効果の大きいところ、小さいところをいくらやってもそれが削減できない。効果が出そうなところで、そういったところこういった助成を組み込みながらやろうということ。例えば、山行っても、間伐材ごろ寝てますよね。ただ自然に腐らせるだけ。

そうじゃなくてそれを支援として、消費者に届くような形、薪にせよ何にせよ、そういった新しい森へ作り変えて、CO2 の吸収を良くしよう、そういったところへウエイトを置いたり、あるいは農家の方も剪定だとか、いらなくなった果物はすごい量ですよね。

そういったものが、さっき言ったように炭にできるだとか。あるいはりんごもジュースにできればいい。ジュースにした後の搾りかすとかがリサイクルで農家に肥料として、還元、循環できるそういったようなものたくさんあると思います。

それとあと、私、一番思ったのは、やっぱり農業は害虫との闘いですけれども、消毒の回数を減らすだけでも、かなり効果はでかいと思います。SS を使って、農薬使って、ですのであれだけの面積をやってらっしゃる。強みへターゲットを絞りながら、さらに具体的に補助金はどうだとか、そんな形でいけるといいのかなと思う。

（RE 諏訪湖）ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。

少し話は逸れますが私松川町さんによく来るとき、必ず梨を買って帰るんですよね。

私も全国いろいろ行くんですけど、一時期九州とかも梨が有名で金賞取ったものとかも御中元でもらったりとかするんですけど、未だにですね僕は松川町さんの梨が日本で一番うまいと思うんですよ。それはやっぱり農業が盛んであり、そのことへの非常に作ってる方々の意欲というかプライドみたいなものを感じて、いいものを作ろうみたいなものがあると思う。やはりそれがどう脱炭素に繋がっていくんだろうっていったときにやはり地域の資源を活用していく。農業の中でも脱炭素していくっていうところでカーボンニュートラル農業という施策もちょっと考えさせていただいたんですけれども、色々なものが資源として循環していくのに、もちろん助成とか補助とかっていう緑の基金だったりとか、森林所贈与税だとかありますので、活用していけるものはあると思います。

それと同時に私が非常に思うのはもちろんですね行政、これは国も県も町もそうですけれども、できることできないことがどうしても出てくると思っている。やはり我々住民であったりとか、民間として、やはり自分たちがこうなったらいいなを実現できるようなものも、やっぱり昔は行政が率先したところに住民や民間がついていくような状況だったと思うんですが、やはりこの脱炭素に関しては民間の事業者の方々であったりとか、住民の方々がなりたい姿に対してやりたいことを行政の方々に後押ししてもらうみたいな流れなのかなというふうに思ってます。

こなぜこう思うかっていうと、実はこの GX 推進法とか脱炭素の流れも実は国の動きよりも、世界的に動いてる企業とかずっと早い。

地元で言うとエプソンさんともこういう環境のお話させてもらうんですけど、エプソンさんの方が国よりも遥かに高い基準で環境に取り組んでいたりします。

そういったところからするとやはり地域に住まわれてる方々がこうなりたい姿に対して取り組んでいくことに、町と一緒になってやっていくというのが非常に良い形ですしスピードが速いんじゃないかなというふうに思います。ご意見をなるべく施策に取り入れながら具体的に進めていければと思います。

（委員）いろいろ聞いて、温度が上がると大変なことになるっていうのはわかったんですけども、そういうのを知っている町民は本当そんなにいないと思うんですよね。やっぱりみんな知らないと、真剣に取り組んでいけないと思うので、やっぱりみんなに知ってもらうっていうことは大事なこと。そういうことをみんなに知らせる方法を公共機関でも考えてほしいと思いますし、そのためにはさっき言ってたようなバスのこととか、一番いいのはそれこそ今、改修工事をやっている清流苑を先ほど出たように町の宣伝になり、町がこんなことやってるというのが住民たちも観光客もわかるし、今からは駄目だって言ってないように考えてほしい。

そういうことがあれば、自分の足元からやっていかなきゃならないっていうように危機感を持って取り組めると思うのでそういうところをもっとしっかりやって、私もやらなきゃいけないとは思いますけど、そういうふうに思いました。

（RE 諏訪湖）施策のアウトラインの中に普及啓発とありますように、来年度も引き続きこの環境審議会の皆様と、それだけじゃなくて住民の方にも参加していただけるような形を、単純

にお話を聞くだけではなくて何かしらワークショップみたいなこともしながら、少しずつ今の現状を住民の方に知っていただくような機会は作っていただきたいなと思いますし、やはり一番はこの環境審議会の皆様が、住民の方々にこの前聞いたこんなことで大変みたいだとか松川町やっていかなきゃいけないんだよみたいなことを、広めてもらえると嬉しいなというふうに思います。

余談になりますけど清流苑さんのお話が出ていることで、実は地域の脱炭素ポイントシステムということで動き始めている市町村さんが出てきています。

環境にいいことをするとポイントがついて、地域内で何か使えるよというものがいくつかの自治体さんで広がってきていて、山の整備ですとか、そういった労力に対してなのか、あとは農家の方々が搾りかすとかをゴミに出さずに循環に持ってきていただける時とかっていうものがあるときに、私が一番いいなと思うのは、ある基準を満たすと、例えば清流苑さん、無料入浴券がもらえるとかだと、施設としても有効活用できます。そこに人が集うところもできたりするので、そういったことも先々は考えていけるのかなということ。非常に松川町さんはこの脱炭素に向けて可能性の高い街だなというのを今回調査させていただきながら我々は感じているところでございますので、また皆様と一緒に作っていければと思っております。

（委員）先ほどの中川村さんがバイオマスボイラーに変えたということだけど、財務的な部分も含めてうまくいっているのか。

（RE 諏訪湖）財務的には合っていると思う。

（委員）そうすると清流苑でもできないという話ではないという理解でしょうか。

（RE 諏訪湖）むしろ清流苑さんの方がもともとの規模が大きいので、効果は高いと思います。元々の規模が大きいので転換したときの効果がでかい。

清流苑さんの方が経済効果も CO2 削減効果も非常に大きくて、PR 効果としても、やはり松川町さんの場合インター降りてすぐに清流苑さんがあったりするので観光への効果としても非常に大きいと思う。

ただ、供給側の不安は、今のところ松川町さんでやろうとしたときには、あります。実は規模で言えば、ボイラーで使うぐらいの規模は十分この松川町さんのエリアで、主伐されていたり間伐されているところから出てくる未利用材から測っても集めれば集まるというデータもある。十分集まるんですけど、商売が始まってないのに買いますよって約束するような話になってしまうので、それはやっぱり計画を立てたところでちゃんとした燃料を安定的に供給できるという形を作っていく必要があると思う。その可能性は十分あると思っていただければと思います。

もうひとつ、イニシャルコストはかかるので、その年の予算でみると厳しいのはあると思う。計画をして、イニシャルとランニングのペイをする期間でいうと、ざっくり多分 7 年から 8 年ぐらいで回収できると思いますが、ここ数年で言うとコロナなどがあってお客様が激減したりとか、そういった波も考えたときに、一概に絶対大丈夫と言うかっていうと、その世情によっては変わると思います。

ランニングコストで言うと、単純に灯油を使い続けるよりは、リスクは低くなる。しかし

イニシャルコストはかかるので、イニシャルに関しては国の補助があるうちに導入しないと、どうしてもイニシャルコストをペイできるまでの期間が長くなってしまいますので、できるだけ足早に進めるといいとは思います。一方で、やっぱり財政的にお金のかかるところなので、そのあたりはしっかり審議をしながら進めていただければというふうに思います。

（事務局）たくさんのご意見を頂戴しましてありがとうございました。町全体が意識を持って取り組まないと実行できないことかなと考えています。また事務局でも、色々勉強会等計画していくつもりであります。

次回は、２月上旬ごろを予定しております。これまでの調査結果などまとめたものを皆さんにご確認いただいて、議会やパブリックコメントというスケジュールです。

その後、来年は、細かい施策の部分を議論いただきたいと考えておりますので、次回も含めてそれに向けて準備してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は長時間ありがとうございました。

以上